

叶和夫先生 略歴・主要著作目録

履 歴

- 昭和31年 9月 昭和31年度国家公務員採用6級職（法律）試験合格
- 昭和32年 3月 京都大学法学部卒業
- 昭和32年 4月 京都大学大学院法学研究科入学
- 昭和32年 10月 司法試験第2次試験合格
- 昭和33年 3月 京都大学大学院法学研究科中退
- 昭和33年 4月 司法修習生を命ずる。
- 昭和35年 4月 司法修習生の修習終了、弁護士名簿登録、大阪弁護士会入会
- 昭和38年 4月 検事2級（大阪地方検察庁検事）に採用する。法務事務官（大阪法務局訟務部付）に併任する。
- 昭和41年 3月 高松地方検察庁検事に配置換する。法務事務官（高松法務局訟務部付）に併任する。
- 昭和45年 3月 東京地方検察庁検事に配置換する。法務大臣官房訟務部付に充てる。
- 昭和47年 4月 仙台地方検察庁検事に配置換する。仙台法務局訟務部長に充てる。
- 昭和50年 3月 東京地方検察庁検事に配置換する。法務教官（法務総合研究所教官）に併任する。
- 昭和52年 4月 判事に任命する。東京家庭裁判所判事に補する。

昭和55年 4月 東京家庭裁判所八王子支部勤務を命ずる。

昭和57年 4月 浦和家庭裁判所判事に補する。浦和家庭裁判所越谷支部勤務を命ずる。

昭和59年 4月 浦和地方裁判所判事に補する。浦和地方裁判所川越支部勤務を命ずる。

昭和62年 3月 任期満了により裁判官退官

昭和62年 4月 弁護士名簿登録、第2東京弁護士会入会

昭和63年 8月 文部省大学設置審議会教員組織審査（札幌大学教授、私法学原理、民事訴訟法、行政救済法、演習Ⅰ、演習Ⅱ）

平成元年 4月 札幌大学法学部教授（現在に至る）

学会及び社会における活動等

昭和59年 4月 日本家族〈社会と法〉学会会員（現在に至る）

著書

『実務と研修のための行政法』ぎょうせい、昭和53年5月

学術論文

「名義貸与者の責任」『判例不法行為法』、昭和41年11月

- 「簿外資産の認定について」 税務弘報15巻3号、中央経済社、昭和42年3月
- 「中間省略登記とはどういうことか」「登記の流用とはどういうことか」「不動産取引事故百科」、昭和49年6月
- 「登記制度」「代理人による申請」「不動産登記の基礎・実用編」、昭和51年10月
- 「財産形成に寄与した非相続人の法的地位」自由と正義29巻5号、日本弁護士連合会、昭和53年5月
- 「婚外子の氏を父の氏に変更することの可否」ジュリスト665号、有斐閣、昭和53年6月
- 「慰謝料について」ケース研究177号、家庭事件研究会、昭和55年4月
- 「遺産分割事件における隔地者間の調停事例」「遺産分割事件における遺言の存在する場合の取扱い」家族法の理論と実務 別冊判例タイムズ8号、判例タイムズ社、昭和55年12月
- 「婚約をめぐる諸問題」民事研修289号、法務総合研究所、昭和56年4月
- 「婚約をめぐる諸問題」民事研修291号、法務総合研究所、昭和56年6月
- 「遺産分割調停事件処理の要点について」ケース研究186号、家庭事件研究会、昭和56年10月
- 「住民訴訟の諸問題」判例タイムズ533号、535号、判例タイムズ社、昭和59年10月、昭和59年11月
- 「注解家事審判法・家事審判規則の中の寄与分関係部分」『注解家事審判法』青林書院、昭和62年2月
- 「注解家事審判法・家事審判規則の中の寄与分関係部分」『家事審判規則』青林書院、昭和62年2月
- 「印鑑証明」『裁判実務大系18 国家賠償法』、青林書院、昭和62年3月
- 「財産分与の処分」『注解人事訴訟手続法』、青林書院、昭和62年10月
- 「遺産分割」『逐条民法特別法講座⑩親権・相続』、ぎょうせい、昭和63年1月

「推定相続人の排除」『講座実務家事審判法3 相続関係』、日本評論社、平成元年2月

「遺言執行者の権限」『講座・現代家族法第6巻―遺言』、日本評論社、平成4年9月

「遺族厚生年金の給付における内縁保護の実態について」山島正男 五十嵐清 藪重夫先生古稀記念『民法学と比較法学の諸相II』、信山社、平成9年6月

その他

「道路管理の瑕疵」（共著）民事研修163号、法務総合研究所、昭和45年11月

「民法上の組合の業務執行組合員に対する任意的訴訟信託の許否」（共著）民事研修167号、法務総合研究所、昭和46年3月

「戸籍の名の記載を職権で正字に訂正することの許否」『民商法雑誌109巻6号』、有斐閣、平成6年3月

「共同遺言」『家族法判例百選第5版』、平成7年1月